

十勝岳

1 概況

1日と15日に規模の小さな火山性微動が観測されました。62-2火口では活発な噴煙活動が続いていますが、これらの微動の前後で特に変化はありませんでした。

2 地震活動の状況

1日21時49分頃から継続時間約4分間(最大振幅はH点で0.09 μ m) また、15日13時08分頃から継続時間約1分間(最大振幅はH点で0.13 μ m)の微動が観測されました。2月8日以降に時折発生している微動は、規模が次第に小さくなる傾向にあります。

地震は少なく1日あたり0~5回で推移しました。

月別地震・微動回数

| 2002~2003年 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 |
|------------|----|----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|
| 地震回数H点 | 28 | 28 | 113 | 96 | 47 | 54 | 93 | 58 | 39 | 44 | 60 | 24 |
| 地震回数A点 | 5 | 11 | 21 | 13 | 15 | 11 | 15 | 16 | 9 | 18 | 14 | 9 |
| 微動回数H点 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 2 | 2 |

3 噴煙活動の状況

62-2火口では活発な噴煙活動が続いており、噴煙高度は概ね火口上100~200mで推移しました。

4 調査観測の結果

6月16~21日に調査観測を、6月18日に北海道開発局の協力により上空からの観測を実施しました。62-2火口では高温状態が続いていましたが、さらに活発化した様子はなく、周辺の地熱域にも大きな変化は認められませんでした。

【62-2火口】

火口内の北側と北西~西側に多数の活発な噴気孔があり、刺激臭を伴う火山ガスを噴出しています。赤外放射温度計(放射率1.0*)により、火口縁から測定した最高温度は324と依然高温を維持していました。

【62-1火口】

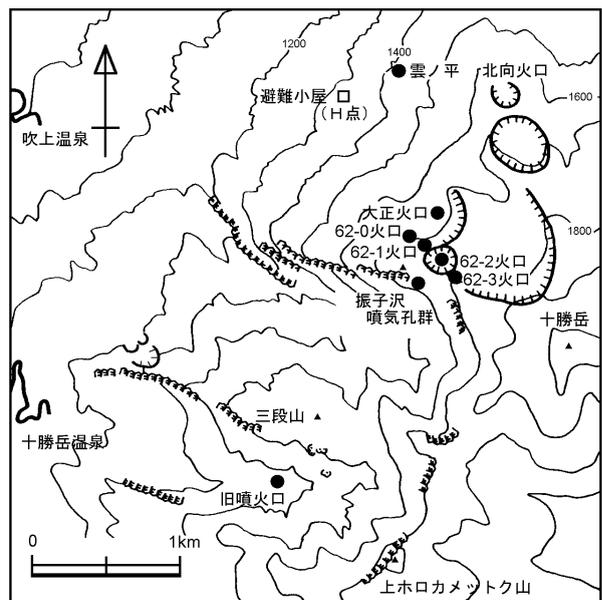
地熱域に対応した黄色の変色域は昨年と変わりませんでした。この変色域の下方に直径約1.2m、深さ約1mの陥没孔ができて弱い噴気が上がっていました。

【62火口周辺の地熱域】

62-0火口、62-3火口、振子沢噴気孔群などでは弱い噴気活動と沸点程度の地熱活動が続いています。

【大正火口】

東側火口壁上部のやや活発な噴気孔は、昨年同様周辺に新鮮な硫黄昇華物が付着していました。噴気温度の最高は156でほぼ横這いです。



十勝岳火口周辺図

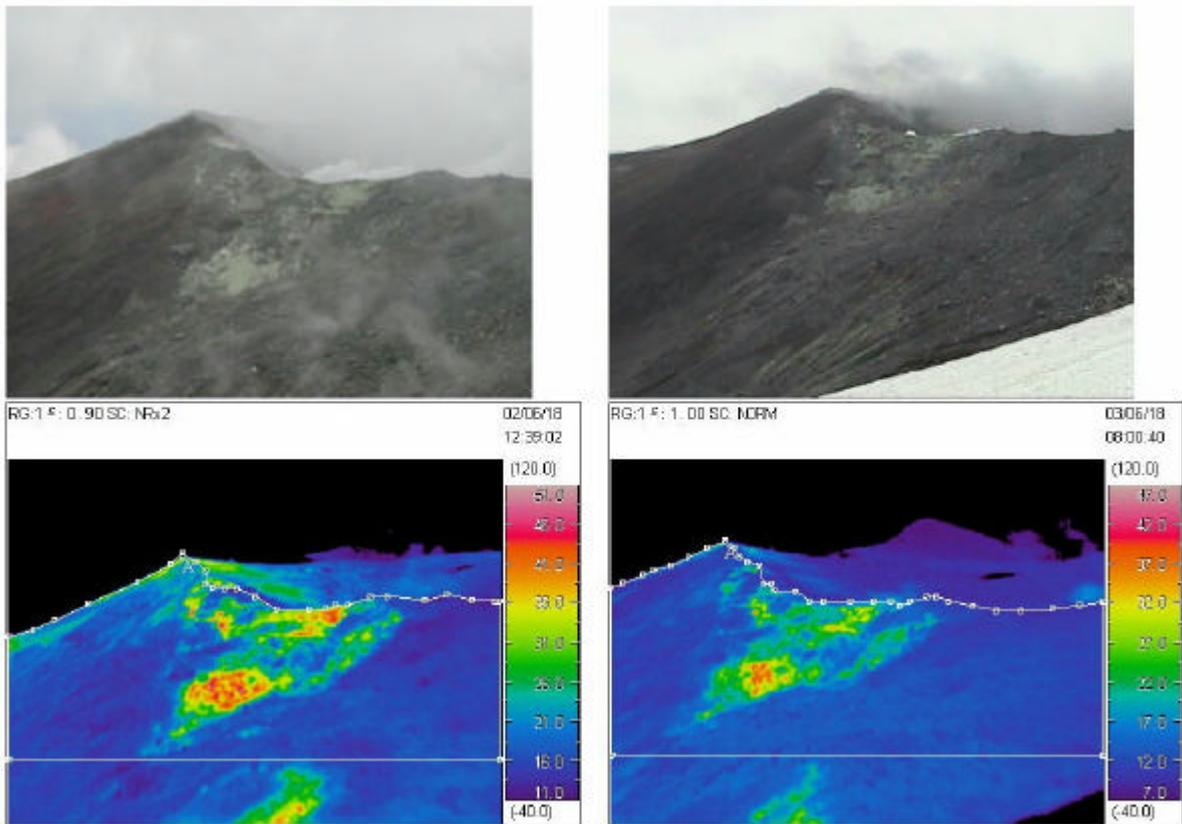
【旧噴火口】

一面、黒灰色～くすんだ黄色に変色しており、沸点程度の地熱活動と温泉の湧出が続いていました。

【雲ノ平(くものたいら)】

雲ノ平で噴気が上がっているとの連絡を美瑛町から受け、調査を行ないました。場所は北向火口溶岩の先端部で、直径約 75cm、深さ約 150cm の穴から湯気のようなごく弱い噴気が認められました。噴気温度は 75 でかすかな硫化水素臭(卵の腐ったような臭い)を感じました。このあたりには以前から地熱があったことなどから考えて、熱活動が活発になったとは考えられません。

* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できませんが、はっきり対象が見えない場合や、熱源から離れると実際よりも温度が低く表示されます。また、同じ温度でも物体により放射の程度(放射率)が異なるため、その設定で温度が変化します。火山観測では一般に、地面や岩石などの放射率 0.9～1.0 に設定しています。



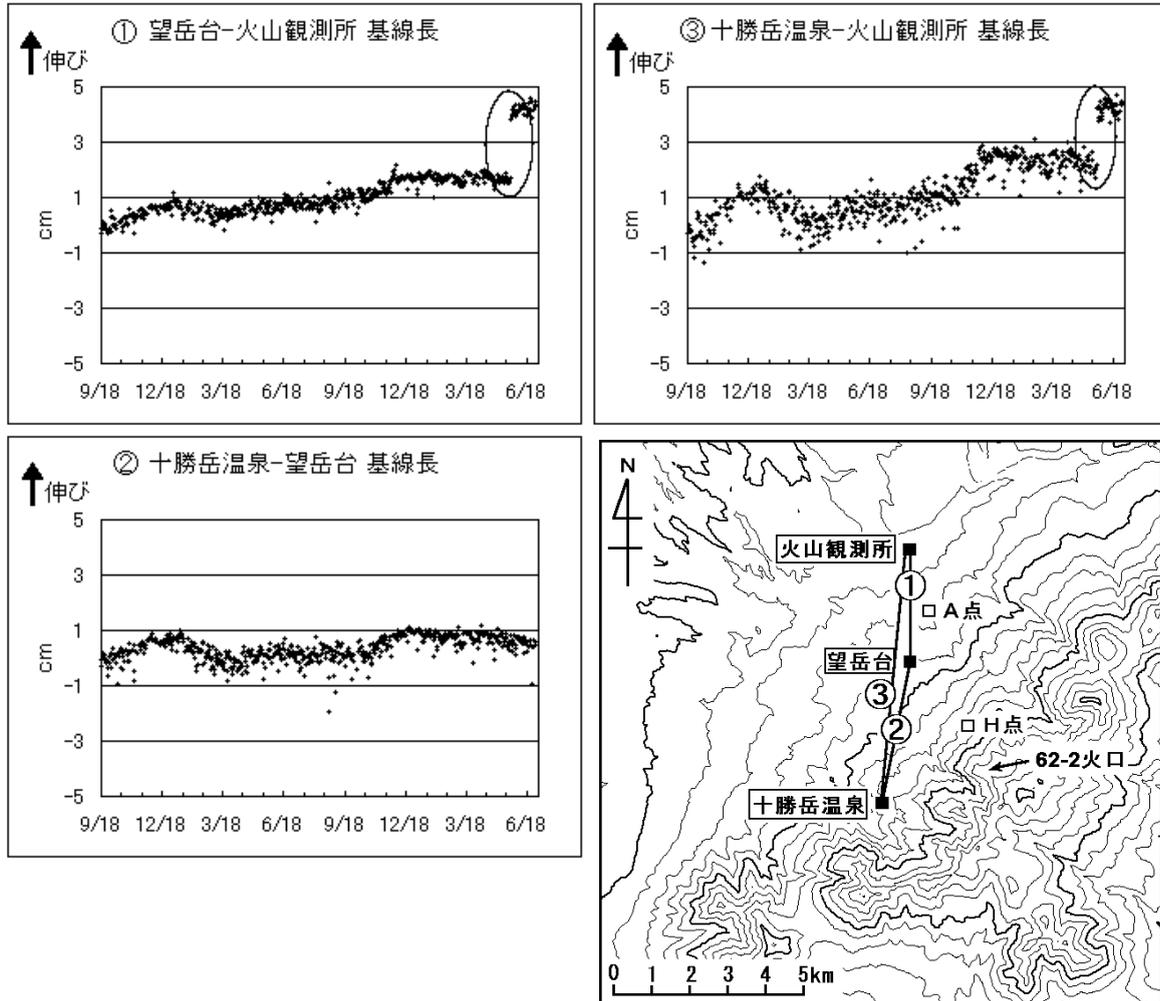
62-1 火口熱映像の比較

左：2002 年 6 月(放射率 0.9) 右：2003 年 6 月(放射率 1.0)

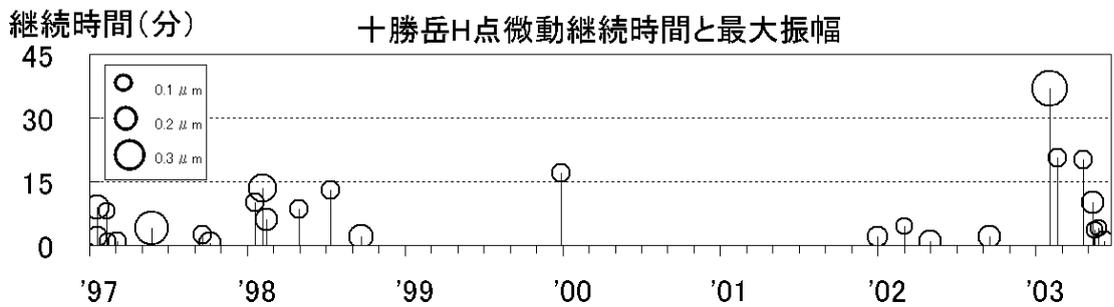
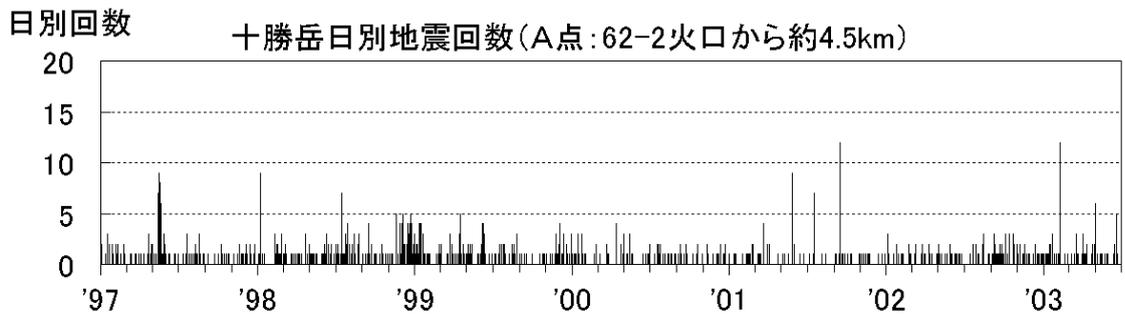
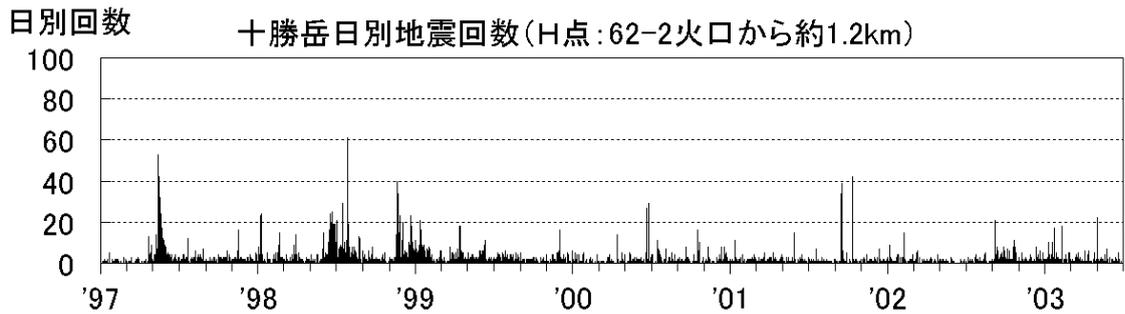
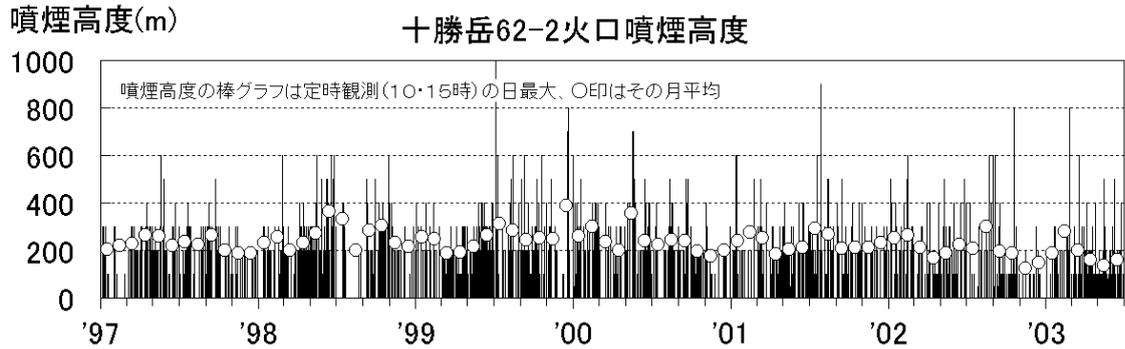
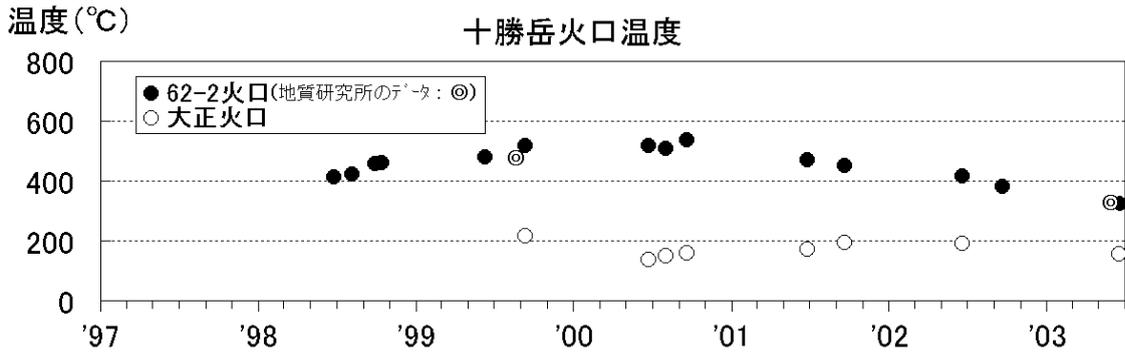
緑～赤で表現されている地熱域に大きな変化はありません。

5 地殻変動の状況

GPS観測で見られる基線長の変化は主に季節変動が原因と推定され、火山活動に起因すると考えられる変化はありません。この基線長に5月24日から見られる不連続な変化(図中 印)は火山観測所の局所的な変動です。



十勝岳基線長変化(2001年9月18日~2003年6月30日)



十勝岳火山活動経過図(日別、1997年1月1日~2003年6月30日)